

○令和3年度 教育事業

全国高校生体験活動顕彰制度・地域探究プログラム「オリエンテーション合宿」

◆目的 オリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを養成する。また、地域での実践活動においては、多様な人々と協働しながら地域にある課題解決に向けた取り組みを行うことで、地域や自然環境に愛着を持ち、新たな価値を創造する高校生を育成する。

◆参加実績 北海道上富良野高等学校第1学年32名

◆プログラム

1. 「顕彰制度ガイダンス」・講話「地域づくりの実践①」(5/18)

大雪職員より、全国高校生体験活動顕彰制度の趣旨や、全11回のオリエンテーション合宿の流れを説明し、活動の見通しをもった。

また、上富良野で地域づくりをしている十勝岳温泉凌雲閣代表の「青野範子氏」の講話を聞き、地域づくりの実践として活動をするイメージをもつとともに、興味・関心をもつきっかけとした。



2. 講話「地域づくりの実践②」「フィールドワーク」(6/10.11)

十勝岳ジオパーク推進協議会の「中村有吾氏」と環境省レンジャーの「齋藤明光氏」から、十勝岳ジオパークや十勝岳のある国立公園での環境省の取り組みについての講義を受け、地域づくりの実践例のイメージをもった。

また、十勝岳の火山活動で作られた地形・自然を見るために、実際に望岳台までのハイキングを行ったり、地域の観光地である青い池を見学したりした。



3. 講義・演習①「地域理解」(6/23)

フィールドワーク①「地域の魅力を発見」で得た個人の気づきをグループで共有するグループワークを行い、十勝岳ジオパーク推進協議会が行っている地域活動の目的や目標をグループで考えた。

4. 講義・演習②「課題解決の基礎」(9/24)

1学期の活動を振り返りながら、探究のプロセス（課題設定→情報収集→考察→まとめ・発表）の流れを理解するとともに、十勝岳ジオパーク推進協議会の活動目的や目標を考え、課題に対しての仮説を立てた。



5. フィールドワーク②(9/29)

講義・演習②「問題解決の基礎」で立てた仮説を検証する為、十勝岳ジオパーク推進協議会の中村有吾氏とジオパークガイドの國枝氏にインタビューを行い、情報収集を行った。

また、実際にフィールドワーク先を巡り、仮説検証に関わる情報を収集した。

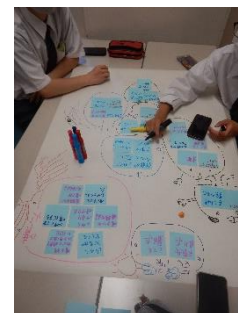


6. 講義・演習③「地域課題の探究」(10/1)

フィールドワーク②「地域課題の探究」を踏まえ、収集した情報を整理・分析し、グループの中で「十勝岳ジオパーク推進協議会が今度どのようなことをしていけばよいのか」の提案を考えた。また、グループでまとめた提案をスライドにまとめ、発表の準備を行った。

7. 発表① (10/15)

スライドにまとめたことを、十勝岳ジオパーク推進協議会の方に向けて発表を行った。



8. 実践活動のためのガイダンス・講義・演習④「行動計画の基礎」(3/16)

行動計画の基本事項(6W3H)を理解し、実践活動での行動計画(仮説を含む)を作成した。
また、実践活動を実施する上での安全管理や社会のルール・マナーを理解した。

9 発表② (3/18)

講義・演習④「行動計画の基礎」で立てた実践活動での課題と仮説、行動計画を発表した。

また、グループ毎の発表に対して、生徒同士や外部の人から質疑応答の時間を設け、より仮説が強固なものになるようにした。



◆事業運営・企画のポイント

- 学校連携型での実施のため、学校の要望や実態を踏まえて進行できるよう、担当教員とこまめに打ち合わせの時間をもった。
- 自分たちの考えだけとなり、狭い視野で捉えることとならないよう、適宜発表の機会を設け、生徒同士や学校外の人たちに向けて発信することで、適宜振り返りながら仮説の検証・修正ができるような流れを組んだ。

◆参加者の声

- 普段生活をしている中では気が付かないことも、実は重要なことだということや、たくさんの方が知っていたらいいな、ということがたくさんあると気付いた。(環境問題など)
- どんな方法で情報を収集することができるのかや、それらによって仮説が検証されていくのが面白かった。
- 探究の流れ(プロセス)で考えると、色々なことに気付くことができた。

◆事業の成果と課題

- ① 学校連携型として実施をすることで、学校のカリキュラムに応じた弾力的な運用パターンを生み出すことができた。
- ② 1年生…探究のプロセスを学ぶオリエンテーション合宿
2年生…学んだプロセスを自分たちの興味関心に応じた課題探究に生かす実践活動
というように、学年によって取り組みがレベルアップしていくという学校全体を巻き込んだ進め方をしていったことで、上級生や下級生の取組を見ることができ、お互いの取組の良い刺激となって、活動がより一層レベルアップしていくという構図を構築することができた。

